

官許

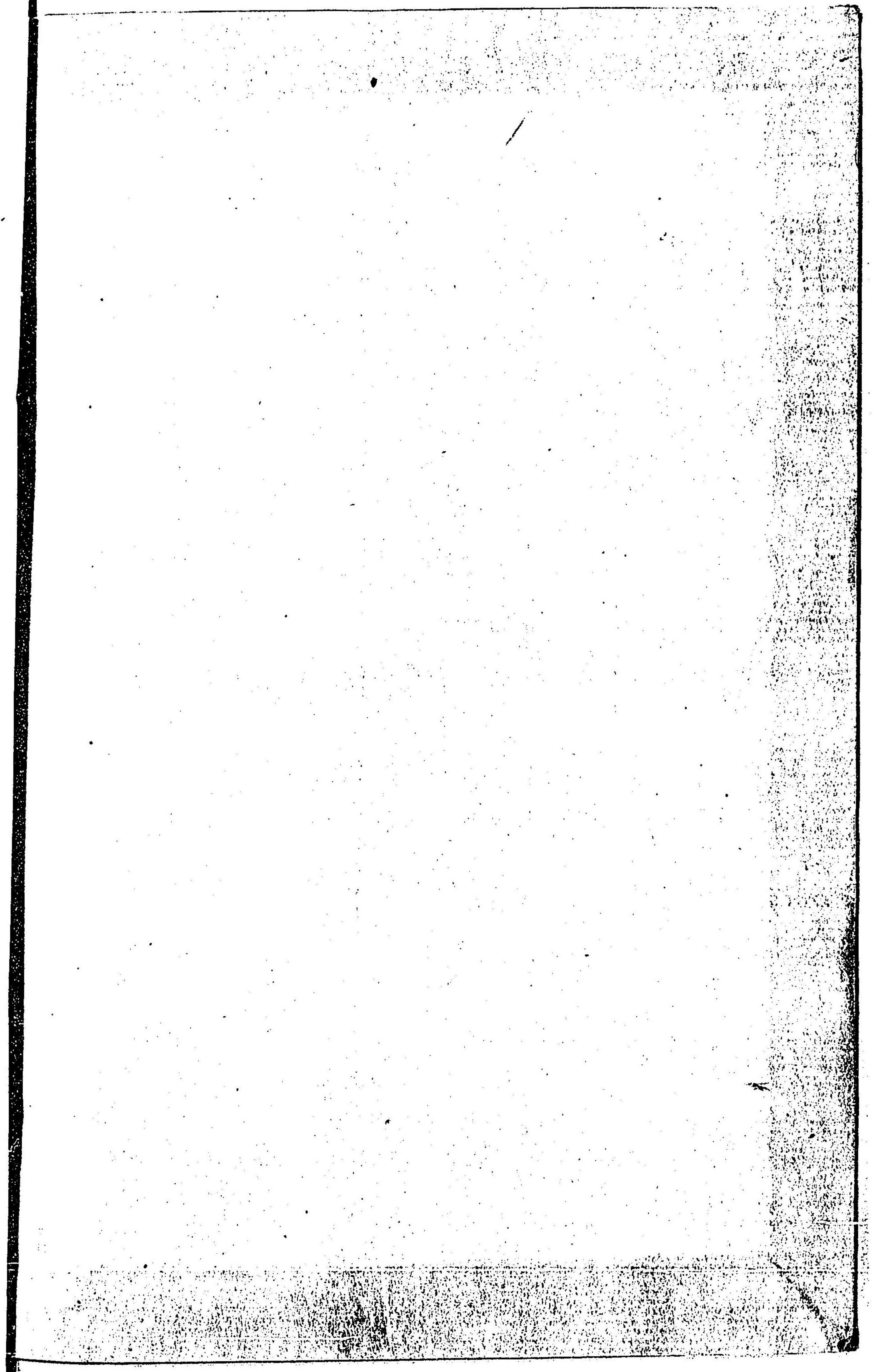
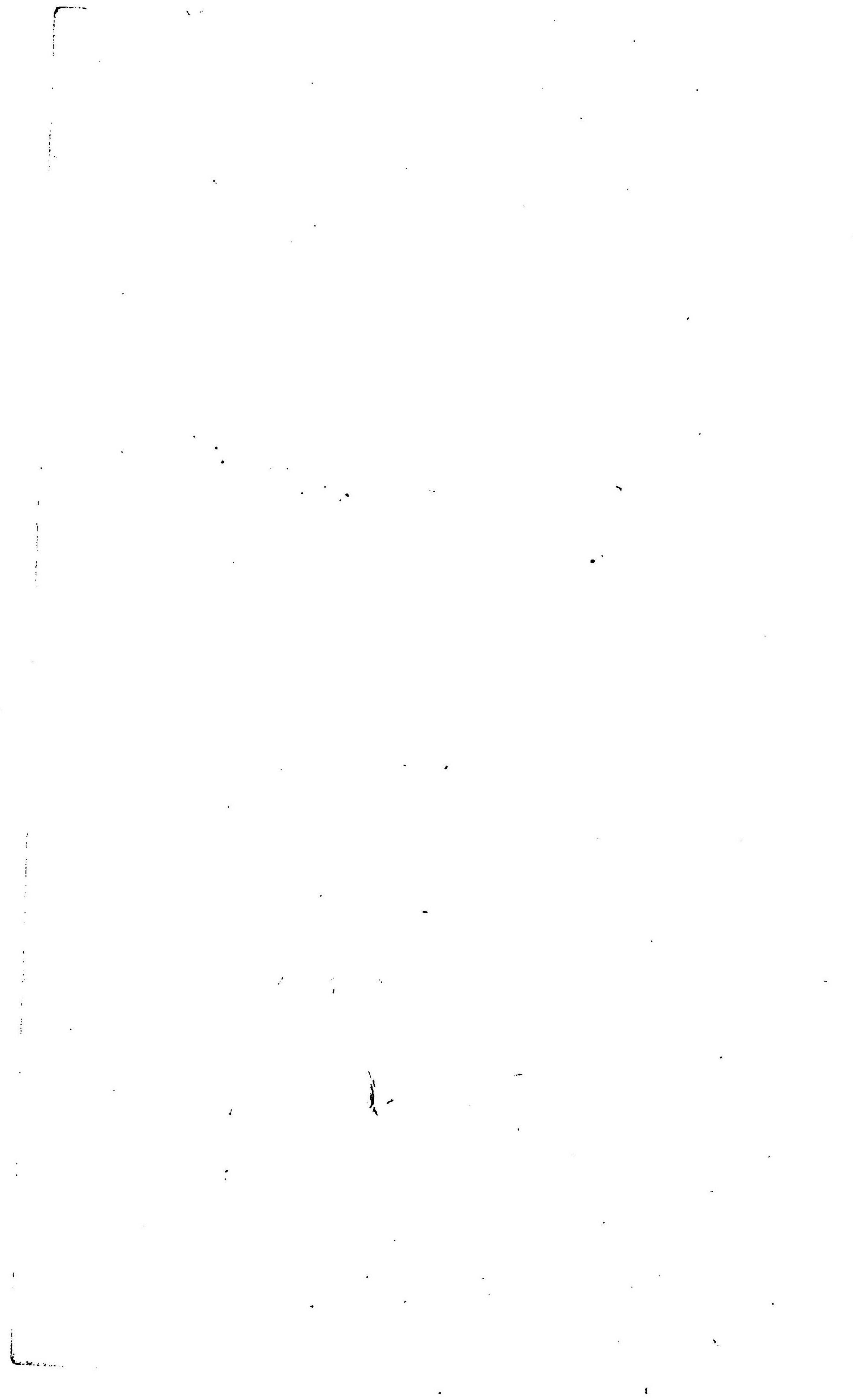
私祭要集

全

252

252

一本





私祭要集の措巻を編むゆゑに

神の御国は神は御裔と生出る其国なり

明治九年圖書局發行

は天皇乃御民を御むむ如たる大朝

廷法御制より奉りて神祭の式

か好らば學び得る勤業行ふる事

は家翁の思ひたる

初年初學れ人々の爲めとの二巻

物—おのこしたる故あへん書肆池村邦則  
ろきよらうと更子官許を得る世ふ弘む  
はらう那里に—此事はいふ行たるべき  
こまはあつていと嬉しくなるむ何を此世  
はまの老人等と此書は足引の山口やうと  
いふ高きたの根より分のおのこしたる  
くしふと六人部是暉

凡例

- 一此私祭集を祝詞文找始め諸の調度ふ至るまで悉く古書故實よ徴證して。一條一句臆識を加ざるあり。徴證部を引合てまゐるべし。但通則恒例臨時は總作法の次第梯等へ。便宜を考て。今新と小大略找定めあるをまじは。尚時宜ふ依て斟酌あるべし。
- 一諸の神事へ。總て通則は作法ル比合て行ふべし。但時宜ふをゆ人少からむ。祭主一人もてもまゐるべし。
- 一六月晦祓遷宮新殿祭の條小。行事の注釋を記せる箇條を。通則外の行事ふまはれり。

一 潔齋の日數を時宜小とせ七日。或は三日。祭主は意を任  
じらる。

一 參殿著座とあはれを宮殿小て行ふ神事あり。著座とのこ  
ろは庭上或は人家より行ふ神事あり。但庭上より行  
ふべき神事といへども時宜小よと宮殿小て行ふこと  
もあるべし。

一 神前座取の指圖は便宜に考へて假し設るれり。

一 拜拍手の次第を再拜兩段拍手兩段と再拜一段と二等  
別ちとはれ。其作法は輕重小依て。大概に定めあるれ  
り。

一 神於呂之の歌ふ祭神を記さるは其祭小依る祭神異か  
れども。臨時祭神を擧て用ふべし。

一 神樂は其固其處に舊來の神樂に奏せらる。

一 二季の祓の調度小。置座を楯シテ小て製作にべき由。本文に  
記さるごとく。尚時宜小より。板案を用ひてもよろしかる  
べし。

一 祓料物。その品を定めばして。料錢を替ふはれ。便宜よりよ  
き。尚徵證部を擧とる。三代格の料物は倣て。其品小て  
出さるむは。時宜小とはれ。

一 恒例祭祝詞の中。六月祓に祝詞を臨時小用ふるは

を。其祓の趣意ふよめて。斟酌あるべし。

一臨時祭祝詞の中よも。正遷宮除蝗祈雨祈晴疫神祭れ詞  
めどは。概略おきど。其時ふよめて斟酌あるべし。

一恒例祭臨時祭の幣帛の中ふ。得がとれ品を。別品ふ替も  
しよと省きてもよめるべし。

一恒例祭の中よ。或を其社ふよめて。作法及供物おど。舊例  
闕がとれ品を取用ふべし。但佛法れよび陰陽師れおれ  
作法小混淆して。皇國の眞故實よ背々るは。あくとく舊例  
古法とめといへども。必改むるべし。

一此集ふ舉ぐる。恒例祭れ外小も。尚諸社よ年中定例の祭

祀ありて。其儀式おどは。舊來れ掟もあるべけれど。一概  
ふ定めづとれよとめて。別卷小其定祭の祝詞文のみを  
出べ。

私祭要集目錄

○上卷

一 諸神祭通則

一 恒例祭則

正月朔日

正月七日

正月十五日

祈年祭

三月三日

風神祭

五月五日

六月晦日祓

十二月准之

道饗祭

鎮火祭

七月七日

九月九日

新嘗祭

一 臨時祭則

地鎮祭

新殿祭

宮門祭

遷宮

宅神祭

竈神祭

井神祭

出船祭

除蝗祭

祈雨祭

祈晴祭准之

雷神祭

地震祭

武神祭

醫神祭

酒神祭

取魚祭

疫神祭

○下卷

折本

一恒例祭祝詞

正月朔日詞

正月七日詞

正月十五日詞

祈年祭詞

三月三日詞

風神祭詞

五月五日詞

六月晦祓

道饗祭詞

鎮火祭詞

七月七日詞

九月九日詞

新嘗祭詞

一臨時祭祝詞

地鎮祭詞

新殿祭詞

宮門祭詞

遷宮詞

行宮  
新宮

宅神祭詞

竈神祭詞

井神祭詞

出船祭詞

除蝗祭詞

祈雨祭詞

祈晴祭詞

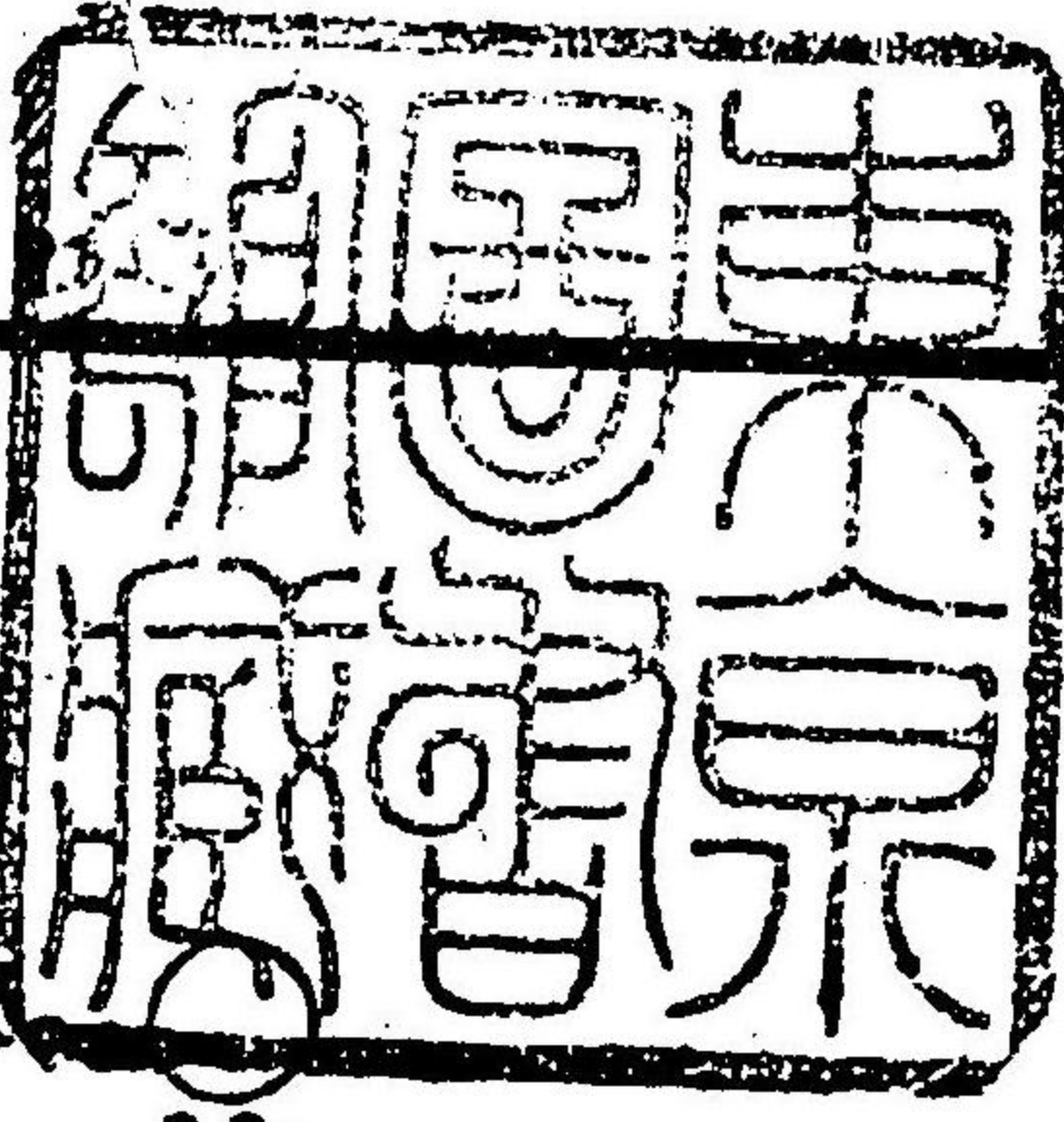
雷神祭詞



地震祭詞  
 武神祭詞  
 醫神祭詞  
 酒神祭詞  
 取魚祭詞  
 疫神祭詞

以上

私祭要集卷之上



諸神祭通則

潔齋

まが身を清免。火子鑽改め。扱忌キももる小於きてえ。  
 喪モ拔吊ヒえび。病を問えび。凡多穢惡の事小何づのら  
 び。又獸宗をも食ふべ加らば。

建神籬

三尺ばうアこれ賢木字。茂シゲく臺イ製作寸法。小立饒るべ

六人部是香著

岡本經春閱

し。但賢木を神檀椿の類あり。

### 引注連建賢木筭竹及幡

鳥居門社殿等小注連をむき。筭竹賢木小麻由布を

附て立幡を鳥居其外便宜の所不立ぼし。筭竹を葉

二尺許の枝麻を白草申布を紙の垂あり。

### 調幣帛

飯酒魚藻菜絹布花玉串太玉串の類。但飯魚を土器

尔柏葉櫛葉又弓を敷ふ盛る。花を其時これ花を

用ふ。玉串ハ賢木の小枝尔麻由布を附。太玉串を三

尺許の賢木小玉白赤青を數多く緒鏡中の枝小挂麻由

布下の枝を附。各御食殿小設もねく但飯酒魚藻菜絹布

の類を三方小居花を花瓶小挿太玉串を筒に挿べし

### 設案琴笛鼓御鹽湯壺

案神前小供物を奉る料あり。但寸法意小はうにの上小を薦を志く。琴笛

鼓各其役者此座の前小設もねく。御鹽湯壺御鹽湯を今加

を小鹽水。賢木の小枝を添子御食殿謂ゆる神供所あり尔

設もねく但琴笛鼓は神樂此具あり。琴を十三

時宜小より板を六筋を張て用ふ。笛を横絃まをと笛鼓を太鼓。御鹽湯壺を鉢の類を用ふべし。

### 設座

座を縁を附ふる。莞菴の類を用ふ。祝詞座の前小を。

小案寸法意小 中琴とを設けき左右に玉串役の座  
 の前小を玉串臺を設けおくばし但座の次第も下小圖を出し  
 著祭服

祭主を初め總役者まが身滌謂ゆる行水の事れして祭服  
袍狩衣白張等ありを著し玉串枝一本おくもち伺候所謂ゆる瀧  
所此事おこ 尔參集志て神前の如く列座しるし

庭火

庭上小て雜使れ者神祭終るはで火を焼べし但中の  
神祭小を用ふばうらぎ

神

粗座 吹笛役  
 吹笛役  
 舞女役  
 膳夫役  
 酒人役  
 玉串役

忌部役 左

祝詞座

舞床

祭主 後取

前

御歌

末座

忌部役 右

彈琴役  
 擊鼓役  
 舞女役  
 膳夫役  
 酒人役  
 玉串役

先 御鹽湯行事

執事役奉行役の事あり 御鹽湯行事と呼ぶ。御鹽湯役稱唯して。御鹽湯壺を持來り。祭主初め總役者小。御鹽湯を榊枝小て振灑ぎ畢て列座に居し。

次 參殿著座

執事役各參殿著座と呼ぶ。先祭主稱唯以次小役者皆稱唯して。先執事役一人後取謂もる從者あり一人。次小吹笛役二人。次小彈琴役一人。次小擊鼓役一人。次小舞女二人。次小膳夫役二人。次小酒人役二人。次小玉串役二人。次小忌部役二人。次小祭主一人。後取二人

次 再拜兩段拍手兩段

と。順次小參殿して。指圖の如く神前此座に著座し。但し人少の時は二人の分は一人。まとを神樂役より。執事忌部酒人玉串の役を兼つと免てもよろし。

執事役再拜兩段拍手兩段と呼ぶ。先祭主稱唯以次小祭主二拜し手を四うち。又二拜し手を四うつ。次小役者皆二拜し手を四うち。又二拜し手を四うつばし。手を四うつを一段と以下は小做す但し拍手おと小祭主初め總役者玉串を左手の大指の間小挾べし。

次 神於呂之

執事役神於呂之と呼ぶ。祭主稱唯して。祝詞座小つ

き。再拜兩段拍手兩段して。警蹕オーオー三聲し。  
笏を以て琴カキナ度搔鳴し。平伏して神於呂之の歌を  
謠ふべし。其歌

阿波理矢遊波須度萬乎佐奴阿佐久アハ爾某大神於  
理萬志萬世リマシマセ三反

畢て再拜兩段拍手兩段し。本座よかへる但此。  
行事のありど。總  
役者平伏をるし。

次 獻幣帛

執事役。獻幣帛と呼ぶ。左右の忌部役膳夫役。共小稱  
唯して。忌部役を神前小進に再拜し。手を一段うち

て。忌部兩人やも小警蹕三聲して。覆面布或を紙小て  
あをのく。膳夫役を御食殿ふい。忌部役は警蹕終  
るをまち。膳夫役兩人やも小警蹕三聲して。覆面をの  
け。太玉串花瓶御酒御食。其外諸の供物多持運ぶ。忌  
部役受やり神前小奉る。畢て膳夫役を本座よのへ  
る。忌部役を再拜し手を一段うちて。本座よかへる  
るし。

次 玉串行事

執事役。玉串行事と呼ぶ。左右の玉串役。共小稱唯し  
て。先左の玉串役持とは玉串茂項ふさし。前ある玉

串臺を持ち。祭主の前より到りて坐す。祭主手拭一段うち。持多。係玉串を右の手小て本を向。此方小して差出次。玉串役手を一段うち。右の手小て受せり。其臺ふれお立ち。左は忌部役の前より到りて坐す。此時右の玉串役持とる玉串を項小し。前れる玉串臺持て。右の忌部役は前小到りて坐次。さて左右の忌部役共ふ手を一段うち。玉串を祭主の如してけし出せ。左右は玉串役共ふ手を一段うち受せり。左右は玉串役共ふ立て左右は首座の役者の前小到りて坐す。それより順次は受せり。左右共小末座小到る。左右

の末座は役者共ふ手拭一段うち。玉串を指出次。左は玉串役手を一段うち受せり。臺をもち。夫より神前の中央ふ對坐して。先左の玉串役項小し。係玉串をせり。手拭一段うちさし出次。右は玉串役手拭一段うち受と。我持多。係臺小おきて。後ふ其項小し。ある玉串をせり。手を一段うちけし出せ。左は玉串役手を一段うち受せり。我持と。係臺ふれく。然して左右の玉串役共ふ玉串臺をもち起て。左は左の忌部役。右は右の忌部役の前小到りてさし出せ。左右は忌部役。手を一段うち受せり。左右の玉串

役を本座小のへる。左右は忌部役。其臺をもち。左  
右共神前小進み。臺のまゝ玉串の本を神前小向  
て奉じ。再拜し手拭一段うちて。本座小かへる。後し

次 祝詞

執事役。祝詞と呼ぶ。祭主稱唯ちて祝詞座ふたき。再  
拜兩段拍手兩段して平伏し。祝詞を再讀む。畢て又  
再拜兩段拍手兩段して。本座小のへる。但此、行  
心ど。總役者事のあ  
平伏去べし。

次 神樂

執事役。神樂と呼ぶ。吹笛役。彈琴役。擊鼓役。舞女。共小

稱唯して。笛琴鼓を奏し。始む。舞女を神前小進み。舞  
ふ。後し。

次 撤幣帛

執事役。撤幣帛と呼ぶ。左右の忌部役。膳夫役。共小稱  
唯ちて。忌部役を神前小進み。再拜し手拭一段うち  
て幣帛を撤去。膳夫役受とて御食殿に納め。畢て膳  
夫役を本座小のへる。忌部役。又神前小進み。再拜  
し。手を一段うちて。本座小かへるべし。

次 神阿計

執事役。神阿計と呼ぶ。祭主稱唯して。祝詞座ふたき。

再拜兩段拍手兩段して警蹕三し。笏戔以て琴を三度

搔鳴し。平伏して神阿計の歌を謠ふ。其歌

阿波理矢遊波須度萬乎佐奴阿佐久良爾於里麻世アハリヤユハストマヲサヌアサクラニオリマセ

留某大神本津御座爾加倍里於波志萬世ルオホカミモトツミクラニカヘリオハシマセ 三反

畢て再拜兩段拍手兩段して。本座りのへる。此但

行事のあひど。總  
役者平伏去べし。

次 再拜兩段拍手兩段

執事役再拜兩段拍手兩段と呼ぶ。祭主先稱唯以次  
尔役者皆稱唯去て。作法初の如く去る。

次 退出

執事役各退出と呼ぶ。祭主先稱唯以。次小役者皆稱  
唯去て。先祭主一人。後取二人。次小忌部役二人。次小  
玉串役二人。次小酒人役二人。次小膳夫役二人。次小  
舞女二人。次小擊鼓役一人。次小彈琴役一人。次小吹  
笛役二人。次小執事役一人。後取一人と。順次小伺候  
所へ歸す。始の如く列座。此、時執事役各退散と呼  
ぶ。祭主先稱唯以。次、役者皆稱唯して退散去べし。

○直會則

此は神祭畢て。祭主を初め役者各直會殿へ參  
集し。神前此如く列座去て。御酒字賜たる次第



あり。但時宜ふより。神前よりは伺候所小て。御酒を賜たる事も有るべし。

先 著座

次 御酒行事

執事役御酒行事と呼ぶ。左右は酒人役稱唯して先、左の酒人役御食殿より。酒瓶ニ土器ニを載トる三方ヲ持リ來リ。祭主の前小居テ坐リ。祭主手を一ツ段うち。土器ヲ把リあぐ。左は酒人役。三方の酒瓶ヲを把テ。御酒ヲ拵グ。祭主飲ミ畢テ。左の忌部役ハさび。但し下小おくる。手より。左の忌部役。手を一ツ手小渡スべし。以下是より。あらへ。

段うちて土器を受ゆる。左は酒人役酒瓶をもち。左の忌部役の前小到リて坐リ。但し左の酒人役坐テあぐ。役の前小到リ。次は右の酒人役。祭主の前小到リて坐リ。祭主手ヲ一ツ段うち。土器を把リあぐ。右は酒人役。三方の酒瓶を把テ。御酒をつぐ。祭主飲ミ畢テ。右の忌部役ハさび。右の忌部役。手を一ツ段うちて。土器を受ゆる。右の酒人役。酒瓶をもち。右は忌部役の前小到リて坐リ。此時左右は忌部役。共小土器ヲ持リし出ス。左右の酒人役御酒をつぐ。左右は忌部役飲ミ畢テ土器ヲ左右の酒人役ハ渡ス。此ノ時酒人役。右手小酒瓶を持リ。左手小土器を受テる。

左右に酒人役。土器を受せりて。左の酒人役も。左の  
首座の役者の前ふ到る。土器を渡は。右の酒人役も。  
右に首座の役者の前ふ到る。土器を渡は。左右に首  
座の役者も。も小手を一段うちて。土器を受とる。左  
右の酒人役。御酒をつぐ。首座の役者飲畢て。左右共  
ふ。次座の役者も。土器をば。次座に役者。手拭一段  
うちて受せり。酒人役。御酒をつぐ。次座の役者飲畢  
て。夫より順次。前に如く土器を受と。渡は。左  
右共。小末座の役者。小到る。末座の役者飲畢て。土器  
を左右に酒人役。ば。左右の酒人役。土器を受と

る。此、時右、手小持とる酒瓶も。左、手小もち替。懐中よ  
こ折紙を出きて。土器を受取べし。但、折紙を豫て  
心得お。ちて左右に酒人役。席上の中央ふ對坐きて  
右に酒人役も。左の酒人役。御酒をつぐ。此、時右  
役も。折紙小載。れがら土器を下小置て。御酒をつぐ。  
左の酒人役は。折紙を下小置て。土器を指。出さべし。  
左に酒人役飲畢て。但、土器を折紙。左の酒人役より。  
右の酒人役。御酒をつぐ。此、時右の酒人役も。折紙  
を。下小置て。土器を指。出さべし。  
右の酒人役飲畢。但、土器を折紙。載て。左、手小  
持。此、時左の酒人役も。中  
央小坐。れがら。右の酒人役。本、  
座小加。するまで。見合。を。夫より先。右に酒人役  
も。祭主の前ふ到る。土器を。折紙小載。祭主手を  
一段うちて。土器を受とる。此、時酒人役。折紙  
を懐中。を。右の酒

人役御酒をつぐ。祭主飲畢て土器を三方小ねく。右の酒人役た。酒瓶を本の三方ふねまて。本座小のへる。次小左の酒人役。祭主の前ふ到て。土器を折紙よ載るらさば。祭主手找一段うちて。土器を受とほ。此時酒人役折紙を懐中さべし。左の酒人役御酒をつぐ。祭主飲畢て土器を三方小ねく。左の酒人役酒瓶を本の三方小ねま。然して其三方找御食殿よ收て。本座小かするべし。

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

恒例祭則

○正月朔日

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 獻幣帛

若水 鏡餅 屠蘇酒 腹赤鱒の魚 干鮎 柑子

柿 栗 梅花但梅花を花瓶よ挿べし

但此外飯藻菜花類も供ふるし。右ふ舉ふるは。此日のみ小限れる品あり。下の條より。其品を舉と

るも同じ趣れまば。皆それ心得あるべし。尚通式  
帛の條引  
合はべし。ある幣

次 玉串行事

次 祝詞

次 神樂

次 撤幣帛

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

次 直會

○正月七日

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 獻幣帛

七種若菜

薺 ナツナ

牛蒡 キタキス

芥 セリ

薑 クマキ

菘 オホネ

滑海藻 アラメ

海鹿 ヒゲキ

以上七種あり

次 祝詞

次 神樂

次 撤幣帛

次 再拜兩段拍手兩段  
次 退出

○正月十五日

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 獻幣帛

七種粥

米コメ

大豆マメ

小豆アヅキ

大角豆サハゲ

栗クリ

栗アハ

蕨ヒユ以上七種を合

煮て粥と  
まべし

次 祝詞  
次 神樂  
次 撤幣帛  
次 再拜兩段拍手兩段  
次 退出

○祈年祭

潔齋

建神籬

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段  
 次 神於呂之  
 次 獻幣帛  
 次 絹布  
但白馬白猪白  
雞の代あり  
 次 玉串行事  
 次 祝詞  
 次 神樂  
 次 撤幣帛  
 次 神阿計  
 次 再拜兩段拍手兩段

次 退出  
 次 直會

○三月三日

先 御鹽湯行事  
 次 參殿著座  
 次 再拜兩段拍手兩段  
 次 獻幣帛  
 次 草餅 櫻花 桃花 柳枝  
櫻花以下  
瓶小挿盈し  
 次 祝詞  
 次 神樂

次 撤幣帛

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○風神祭

潔齋

建神籬

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

鹽 蓑

笠 蓑笠を太玉  
串小附べし

次 玉串行事

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○五月五日

葺宮殿菅蒲

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

但菖蒲を挿頭カサシて參殿カサシ以べし

次 再拜兩段拍手兩段

次 獻幣帛

酒 糴チキ

蒜ヒレ

山芋

糴チキを菖蒲或は櫛の葉チキをき其  
上小盛チキ酒を菖蒲の根を渡チキ以

次 祝詞

次 神樂

次 撤幣帛

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○六月晦祓十二月  
准之

潔齋

建神籬

天神地祇二本被戸神四本建處は時宜  
小と依べし

調置座

置座オキクラを細き木を麻繩細き木小て結細き木堅め案細き木此形小構造

了神前但寸法意に設置小任べし

調大奴佐



大奴佐カヌサ之カヌサ苜蓿カヌサを細くはき取ツク總ツクねて五尺ツクむのツクは  
竹タケ小結コヅメ著ツク臺ツクを挿ツクで。神前ツク小設ツクねくツクるツクし。

先 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 御鹽湯行事

執事役御鹽湯行事と呼ぶ。御鹽湯役稱唯志ツクて御鹽  
湯壺ツク持ツク神前ツク小進ツクと再拜ツクし。手を一段うちて。先ツク神  
床ツクを清め。次ツク祭主ツクを始ツク免ツク。總役者ツク小振ツク灑ツクぎ畢ツクては  
と神前ツク小進ツクと再拜ツクし。手を一段うちて。本座ツクよ加ツク牙  
るツクべし。

次 神於呂之

次 祓詞

執事役祓詞と呼ぶ。祭主稱唯志ツクて祝詞座ツク小進ツクと再  
拜ツクし。手を一段うち。參集人ツク比方ツク小ツク斜ツク。神床の方三分  
參集人の方七分  
分。尔ツク向ツクて讀ツクむ畢ツクて再拜ツクし。手を一段うちて。本座ツク尔  
加ツク牙ツクるツクべし。

次 獻幣帛

次 奉祓物

執事役奉祓物と呼ぶ。忌部役稱唯志ツクて神前ツク小進ツクみ。  
坐ツク志ツクて再拜ツクし。手を一段うち。豫ツクて取ツク調ツクねきツクるツク。祓ツク

物氏子より、祓物の料錢多きと先て、何小ま  
き其時の便宜小はりせて、品と取調ふるし。ト  
部役より受取て。置座上小備す。もと再拜し手次  
一段うちて。本座小のへ流るし。

次 大奴佐行事

執事役。大奴佐、行事と呼ぶ。忌部役稱唯して。神前小  
進て再拜し。手次一段うちて。大奴佐より取持持參集人  
を拂ひ畢て。大奴佐をト部役より渡て。本座より加り  
ト部役受取て。祓物中共小流河より流るし。

次 祝詞

次 撤幣帛及祓物

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

次 流祓物

ト部役祓物を始め。調度の物より至るまで。殘れ流  
河より持出て流るし。

○道饗祭

郷里の四方より入口より行ふるし。但、祓式終て  
後、行ふた、恒  
例あり、臨時小り  
潔齋あるべし。

建神籬

先 御鹽湯行事  
 次 著座  
 次 再拜兩段拍手兩段  
 次 神於呂之  
 次 獻幣帛  
 次 祝詞  
 次 撤幣帛  
 次 神阿計  
 次 再拜兩段拍手兩段  
 次 退出

○鎮火祭

道饗祭終了之後。此祭を行ふは恒例あり。但臨  
 時小ハ潔齋有るべし。

建神籬

先 御鹽湯行事  
 次 參殿著座  
 次 再拜兩段拍手兩段  
 次 神於呂之  
 次 獻幣帛  
 次 祝詞

次 撒幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○七月七日

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 獻幣帛

鮭 瓜

索餅サシベイ素麵の類あり

萩

尾花

葛花

瞿麥

峯

峯郡濱田村大字在所村三社  
廣生社

藤袴

女郎花

朝貌

萩以下七種ハ花瓶小挿ベシ

次 祝詞

次 神樂

次 撒幣帛

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○九月九日

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 獻幣帛

氷魚 白き細ある魚の類れり

菊花 菊花を花瓶に挿べし

次 祝詞

次 神樂

次 撒幣帛

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○新嘗祭

潔齋

挂稅

稻を結び束ねる。玉垣。又も殿上のおどよた所小挂

饅べし。

庭火

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 獻幣帛

黒酒 白酒 黒酒ハ濁酒小久左木灰を和合し  
ぞくし白酒ハ灰を和せざるなり

次 玉串行事

次 祝詞

次 神樂  
 次 撤幣帛  
 次 再拜兩段拍手兩段  
 次 退出  
 次 直會

臨時祭則

○地鎮祭

宮殿子初免人家總て建物を立る地面の四方  
 糸注連を引箒竹を賢木と小麻と由布とを附  
 て立饒るぎし。

建神籬

先 御鹽湯行事  
 次 著座  
 次 再拜兩段拍手兩段  
 次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○新殿祭

懸玉

新殿の四方ふ。白赤青の玉を。數多く糸小貫き懸  
けし。

建神籬

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 散米行事

執事役。散米行事と呼ぶ。散米役稱唯して。散米筥を  
持進+。米を新殿の四方ふちらばるし。

次 散酒行事

執事役。散酒行事と呼ぶ。散酒役稱唯して。散酒壺を  
持進+。酒を賢木の小枝+。新殿の四角ふ。ふりそ

そぐばし。

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○宮門祭

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出



○正遷宮

新殿の四方小注連を引。箒竹と賢木と小麻由布を附て。立回らばし。

潔齋

筵道

新殿を假殿とせ間ふ。布を敷續くばし。

庭火

先 御鹽湯行事

次 參假殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 再拜兩段拍手兩段

次 立人垣

氏子の者ども。身を清め淨衣を著し。玉串茂項小し。手と手と取て。假殿より新殿に至まで。道の兩側  
亦立るべし。

次 神體遷輿

次 警蹕三聲

次出御

先 松明役 分二人

次 警蹕役 一人

次 幡役 分二人

次 梓役 分二人

次 弓矢役 分二人

次 太玉串役 一人

次 松明役 分三人

次 執事役 一人

附 後取 一人

次 舞女 分二人

次 吹笛役 分二人

次 彈琴役 一人

次 擊鼓役 一人

次 松明役 分二人

次 神馬 馬夫二人

次 御輿

附 駕輿丁 十二人

次 刺羽役 四人 漆御輿兩側

次 絹笠役 一人 覆御輿

次 松明役二人分行

次 祭主一人

附 後取二人

次 到新殿警蹕

次 奉安御正體新殿

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 獻幣帛

次 玉串行事

次 祝詞

次 神樂

次 撤幣帛

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

次 直會

○宅神祭

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○竈神祭

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○井神祭

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○出船祭

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○除蝗祭

潔齋

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

絹 布 但白馬白猪白  
鶏の代あり

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○祈雨祭

祈晴祭是よあらへ

但黒馬白馬  
小加ふるし

潔齋

建神籬

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

黑馬馬ハ庭上小  
繫置ベシ

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○雷神祭

建神籬

列立弓矢梓幡

先 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 祝詞

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

地震祭

建神籬

先 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 祝詞

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

○武神祭

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛



次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

次 直會

○醫神祭

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

次 直會

○酒神祭

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座  
次 再拜兩段拍手兩段  
次 神於呂之  
次 獻幣帛  
次 祝詞  
次 撤幣帛  
次 神阿計  
次 再拜兩段拍手兩段  
次 退出  
次 直會

○取魚祭

海濱小祭場戎構なまこ

建神籬

先 御鹽湯行事

次 著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 玉串行事

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 退出

次 直會

○疫神祭

但此神祭終らば道饗祭を行ふる

建神籬

先 御鹽湯行事

次 參殿著座

次 再拜兩段拍手兩段

次 神於呂之

次 獻幣帛

次 祝詞

次 撤幣帛

次 神阿計

次 再拜兩段拍手兩段

次 退出

明治九年八月廿三日出版々權御願  
全年九月十三日版權免許

定價十五錢

京都府士族

山城國乙訓郡向日神社祠掌六部是暉父

故

著述者 六人部是香

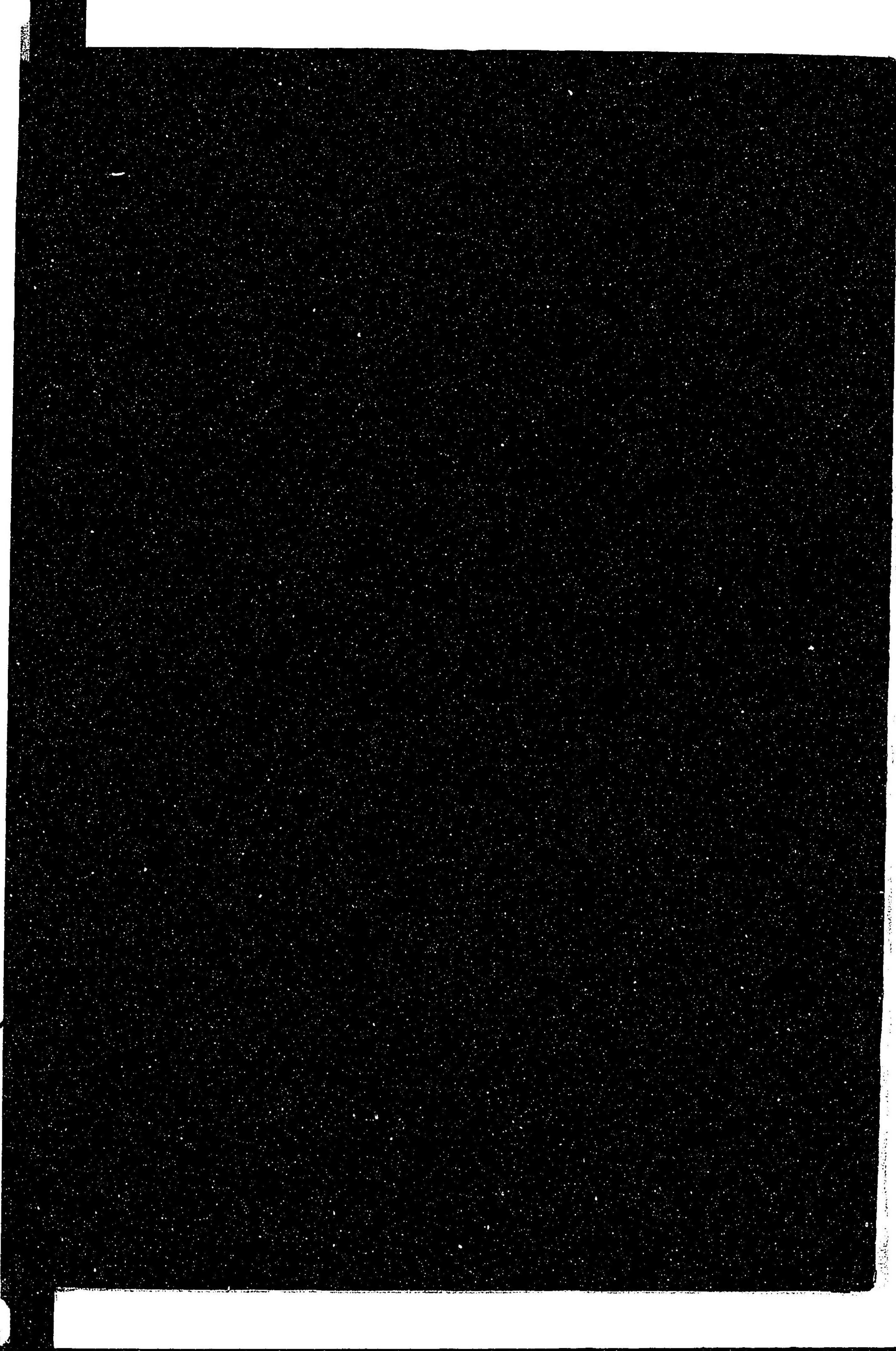
乙訓郡第二區向日九百四十壹番地

京都府平民

出版人 池村久兵衛

上京第三區中山町四百七十七番地

SECRET



特56  
252

014100-000-0

特56-252

私祭要集

六人部 是香/著

M9

ABB-0365

